

白梅学園大学大学院博士課程 2012 年度学位論文
「幼稚園における子ども同士の同型的行動の研究」(B1H003 砂上史子)

学位論文の文中に一部に誤りがございました。お詫びして、正誤表の通り訂正いたします。

正誤表

訂正箇所 (頁/行)	訂正内容	
	誤	正
3 頁/2~5 行	平成 18 年に教育基本法が一部改正され、第 11 条で「幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものである」(p.26)とされ、生涯発達における幼児教育・保育 ¹ の意義が位置付けられた。また、学校教育法第 22 条では「幼稚園は、義務教育及びその後の基礎を培うもの」(p.29)と位置付けられている。	平成 18 年に教育基本法(2006)が一部改正され、第 11 条で「幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものである」(p.26)とされ、生涯発達における幼児教育・保育 ¹ の意義が位置付けられた。また、学校教育法(2007)第 22 条では「幼稚園は、義務教育及びその後の基礎を培うもの」(p.29)と位置付けられている。
12 頁/23 行	(増田,2002)	(増田・秋田,2002)
86 頁/33-35	例えば、同じ物を複数の子どもが操作している状態では、直接的な子どもの交渉が生じやすい(Vandle,&Wilson,1982; Eckerman,&Stein,1982)。	例えば、遠藤(1995)は、Vandle,&Wilson(1982)や Eckerman,&Stein(1982)の研究から、「同じ物を複数の子どもが操作している状態の中では、直接的な子ども同士の交渉が生じやすい」(p.255)としている。
87 頁/28	『先占の尊重』の原則	『先占の尊重』の原則(山本,1991)
i, v ~ vi	子どもと保育総合研究所 代表/森上史朗(監)・大豆生田啓友・三谷大紀(編),最新保育資料 2010.	子どもと保育総合研究所 代表/森上史朗(監)・大豆生田啓友・三谷大紀(編),(2010).最新保育資料 2010.
v		増田時枝・秋田喜代美.(2002).遊び開始時の「役」発生・成立スタイルの検討.保育学研究,40(1),75-82. (追加)

以上